

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	PARCあしや		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 12日		～ 2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 4日		～ 2025年 1月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種連携 セラピスト等の専門職が充実 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士) 保育士・児童指導員がメインとした個別療育	・専門的知見にとらわれない寄り添った療育 子どもに合わせて、来所される前に環境設定を行っている 子どももスタッフも楽しく過ごせる時間を目指している ・研修とアウトプットの機会を増やす 学んだ知識をスタッフへ還元(アウトプット)している 様々な研修へ積極的に参加している	・密なコミュニケーション 専門職のさまざまな意見を出し合い、さらなるスキル向上へと繋げていく。 ・やってみたいと思える環境の準備 能動的に「できる」を引き出すことができる環境支援をより一層強化していく
2	・親子療育(個別療育) 保護者の方にお子さんを客観的に観察していただくことで、 子どもの成長を感じる 保護者もホッとできる環境を準備する 個別化にて密度の濃い関わりができる	・客観的視点 見る視点を変えていき子どもの強みを共有している 個別療育の様子を降所時や保護者とお話する際に共有する 振り返りシートなど可視化できるツールにて具体的にFBする 相談員含めた他視点を事業所にて共有している	・意識した中での療育の共有化 定期的な会議やケースカンファレンスにてねらいの共有 距離感や言葉掛けなどすぐにフィードバックする 経過を共有して療育とのリンクを図る 集団療育にて、ねらいに沿った関わりを目指す
3	・行政連携(訪問支援) 保育所等訪問支援や自立支援協議会を通して学校・園との連携にて相互に成長(課題)や必要性を共有できている 地域が一体となって、気になる子への支援を目指している	・学校園の先生方との連携強化 訪問支援がスムーズにいくように先生方と密に連携を行っている。日程調整などは学校の協力もあり持続的な支援に繋がっている。教育委員会とも学期ごとに会議を行いズレの無い支援の確認を行っている。	・職員のモチベーションや役割認識強化 子どもたちのためにできることを一人一人が考える時間や環境を確保していく 企画をそれぞれが出し合い「やってみたい」を実現できる取り組みを実施する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ニーズに対する十分な対応 地域ニーズへの対応が不十分である。訪問支援や不登校支援、そして通所支援の枠の確保など求められていることに対する十分な対応ができておらず人財不足が課題	・人員不足 現状として、スタッフの人員が足りていない 個別性の高い療育のため一人一人の負荷は大きい 訪問支援の担当スタッフが持続的に介入しにくい	・人員を確保する お仕事説明会などPARCの魅力を伝える 求人活動を積極的に行う
2	・療育の意図 ただ遊んでいるように見られ、療育の意図が伝わっていない (特に利用初期の方に多い)	・十分な説明や理解 限られた時間(個別療育での1時間)の中で子どもの様子や変化、療育意図等を説明できていない	・関係性の構築と可視化 保護者と信頼関係を築く中で、療育の説明を伝えていく 可視化できるツールを準備して理解を深めていただく
3			